

小 報  
三 友 会  
島 育 友 会

# が ン ば



青友会長  
山 本 萬五郎

## 今年度をふりかえって 反省と来年への期待

今年度も、あと残すところわずかとなりました。ふりかえってみると、時の経つのが余りにも早いことを感じ、また、いろいろな思い出が次ぎ次ぎに浮んできます。

今年度の私たち三小育友会の活動は、新しい事業や活発な仕事ぶりによって、これまでの歴史のなかでも、特に盛んであったように思います。

具体的活動内容については、各専門部の反省と、来年への申し送り、ご報告があると思いますが、特に印象に残ったのは、学級部の活動がほとんど新しく開拓されたもので、たいへんご苦労も多かったと思いますが、実りのゆたかなものであり、今後の発展を大いに期待しております。また、生活部の町内対抗バレーボール大会も、これから毎年の楽しい行事として、ますます盛んになってほしいと思います。教養部の講演会、交通部の安全指導、それに広報部の、「がんばん」作りなど、それぞれにみな熱心に取り組んでいただき、りっぱな成果をあげられたことを、心から有難く思っております。

懸案の「体育館建設」が敷地問題で行き詰り、具体的に進むことができなかったことを非常に残念に思い、申し訳なく存じております。

白山切崩しの「区画整理事業計画」の中に確保できなかったのも、その後、市長さんや教育委員会、地元選出の議員さん方ともよく相談して、何とか早急に実現できるように、要望をつづけております。会員の皆さんからも、どうぞ一そうのご支援、ご協力をお願いいたします。

次、かねて、PTA予算の学校後援費を公費で負担してもらおうように、という要望は、連合PTAなどからも強く運動していたところですが、今年度やっと要望額の半分ほどが認められることになり、来年度では恐らく全額が実現できる見通しとなりました。しかし、差し当り今年度は、約半額が、足ることになり

ますので、学校とも相談して、当初全廃していた学校後援費を、特に今年度まで計上することにし、予算の補正を、十一月十二日の臨時代議員会におはかりし、ご承認を得ました。四月の総会の決定による手続きをとった次第です。

最後にになりましたが、今年度の思い出のなかで、特に忘れることのできないのは、長い間、異郷のアメリカから、かずかずのお便りや多額のお金、珍らしい資料などを送り、子どもたちを上げまし、親しまれてきた、上田金作さんが、とうとう故郷の土をふむことなくお亡くなりになったことです。このことは別にお知らせもし、有志によるお葬式にも多数ご参列下さいましたが、ここにまた、あらためてご報告し、心からご冥福をお祈りしたいと思えます。



学校長 村 田 正 一

### 「考える力」を伸ばす

本年度の一番大きな目標は、子どもの「考える力」を伸ばすことでした。学校の勉強では、何年も前から、このことをめあてて研究を進めてきました。欲を言えばきりがありませんが、一応目あて通り進んでいると言えるようです。

自分自身で問題をつかみ、解決し、結論を出す。その考えをみんなに発表する。他人の意見をよく聞き、その上で自分の考えをもっとはっきりさせる。更に、なぜそんなに考えたのかという理由までつけ加える。これだけのことが、一年生にもできるようになりました。りっぱなものです。どこに出しても決してひけをとらない勉強ぶりです。

だが、「考える力」がほんとうに伸びたのでしょうか。一学期の始業式のときに話したことを、「がんば」の七月号に書いたのをおぼえていただけますか。私は、子どもに對して、

「気のつく人になろう」  
「目のみえる人になろう」というめあてを示し、この具体的な例として「紙くず」「水道の水」「廊下を走る」の三つをあげて説明をしました。これは具体的な生活の場での「考える力」を伸ばそうと思ったからです。だが、こ

の一年間、具体例にあげた三つのことでは、残念ながら及第点はとれませんでした。

三学期のはじめの代表委員会のとき、一ケ年の反省と、三学期のめあてについて話し合いました。そのとき、子どもたちが出した結論は「廊下の正しい通り方」でした。やっと自分たちの問題としてとりあげたのです。

考える力を養うのに一番たいせつなことは、「これほどうしたらうまくいくだろう」と自分の問題としてとりまくせることです。

学校では、子どもの力を十分に発揮させる機会をできるだけ多くつくるよう努力しています。

このような機会を、自分のものとしてとりくむ子どもは、ぐんぐん力を伸ばすことができるのです。



回顧

副会長 森本 定義

堅く閉ざしていた桜の蕾もふくらみ、樹々の梢も、冬眠から迎春へと始動しているような季節となつて、愈々卒業式がやってくる。

育友会卒業者を代表して

光陰矢の如しとか、つい此の間、末っ子がランドセルを背負い母につれられ、第三小学校の門を、くぐつたかのように思えてならない。

長男が高三、長女が中三、末っ子の二男が今春小学校を卒業し中学へ進学する。ふりかえつて見ると長男が小学校に入学してから、十一年になる。この間、育友会の組織のなかで知り合った地域の少年団員を初め町内、学級、関係諸団体等、数多くの人の顔が脳裡に浮んで参ります。

昭和三十八年管藤校長先生から松本校長先生へ昭和四十

三年には現在の村田校長先生へと、又育友会長さんも藤田さん、本田さん、山本さんへと引き継がれ、時代の年輪が刻まれております。

会報活動として育友会報が昭和三十八年に発刊、昭和四十年には、その会報名を会員から公募した結果「がんば」と命名され爾来、広報部員の方々の熱心な努力が実り、親しみのある育友会報として継続発行されておるようです。

三小地区は、会報名のおり海岸線に恵まれながらも、年々汚染されてゆく海、それに加え航行する船舶がはげしくなつて、安全な遊泳は出来ない状態に着目、父兄の間で安心して泳げる場所の確保について、色々対策が講じられるとともに、プール建設の機運が高まつて参りましたが、父兄を中心とする、地域諸団

体の方々の強力な援助の結果昭和四十二年待望のプールが完成した大事業の想い出は、印象に残るものでございます。さらに、この完成と機を同じく、体育館建設の話が、ちらほら出ておりましたが、

昨今、特に、体育館の設置は、時代の要請だとの与論が、地

域諸団体の共感を呼び、その実現に向け努力されているようです。このことについては、市長さんも施政方針の中に、第三小学校、第五小学校に体育館建設を表明されていることは皆さんもご存知の通りですが、卒業して在籍児童の無い私達としてもこの実現の早いことを望むものでございます。最近、良く経済の高度成長という言葉を耳にしますが、そのあほりを受けてか、都市化の波が第三小学校舎の近隣まで迫つており、ご覧のように白山は跡かたもなく切り取られております。

身近かなことに目を向けて見ると、朝、挨拶をして通る中学生、高校生、道ですり合う青年等も何年か前は、少年団の一員であつたらうと思ふとき、ふと自分の年令を考へて見たりします。

長かつたようで短かくもあつた育友会員としての十一年間は、人生修練の場として大いに勉強になったことを感謝申し上げます。

おわりに益々、伝統ある第三小学校の発展を祈念するとともに育友会の今後の活躍を期待いたします。

### 卒業前に思う

六ノ五 吉田博恵

私たちは、六年前の四月、桜の花の咲きみだれているころ、母に小さな手をとられ、この学校にはいつてきた。小さいながらも幼い心はずませ、大きな希望にもえていた。

あれから六年も長い年月がたつた。今までをふりかえって見ると、楽しいこと、うれしいこと、悲しいこと、苦しいこと等、いろいろあつた。そのよくな経験を通して、からだだけでなく、生活面でもぐんぐんと成長していることを感じる。たとえば、低学年でも、高学年でも、けんかをするにはある。しかし、けんかをしたあといつも「ああ、自分が悪かつた。今度からけんかはするまい。」と反省する。そうするたびに、少しづつ人との接し方を身につけて、理由のないけんかがなくなり、自分自身が前進しているように思う。これは、ほんの一例だが、

その他いろいろのことを覚え、りこうになり、大きくなってきた。しかし、このようにして、ものごころついた今、なんだか、何も知らなかつた小さいころの、率直さや純真さがちよっぴりうらやましくなることがある。だが、今は今なりの率直さや純真さがあるように思う。

さて、まもなく中学校へ進学するが、未知の世界へはい

## 卒業生感想文

とという不安はあるが、大きな希望にもえている気持ちが強い。「中学校とはどんなところだろうとか、小学校とどのようにちがうのだろう」とか、いつも考えている。およそのことは、よく姉に聞くが、やはり、自分が行ってみないとよくわからない。中間テストや期末テストは、とてもむずかしいそうだが、どんなにむずかしいのか、どの位の順位にはいるのか、また、クラブ活動はおもしろいのかなど、

今私の胸は、はずんでいる。しかし、中学校は、小学校以上の苦勞があるにちがいない。その苦勞を一つ一つのりこえてこそ、ほんとうの中学生といえるのではないか。そのために、中学校では、しつかりしなければいけない。それから、いつも大きなゆめをもって、のびのびと大らかにすごしたい。……など、いろいろなことを思いめぐらされる。しかし、その中学校にはいるまでに、あと一ヶ月ほどの期間がある。その間、中学生としては、じ

### 小学校の思い出

六ノ一 小島龍彦



ぼくは、小学校生活の思い出は、たくさんある。その中でも、ぼくが、もつとも心に残ることは、修学旅行のことだ。その日の前日は、少しもねむれなかつた。それは、

あした天、たろうか、雨じゃないだろうかと、不安で窓をあけ空を見る。まっ黒な空にキラキラと星が光っていた。あしたは、天気だと安心してそこにはいる。でも、またぼくの頭になにか浮んでくる。「忘れものはないか、友だちが、けがや病気でいけないといういろいろ心配だ。でも、旅館でおいおいさわいだこと。」

熊本城のゆうゆうと立っている姿。

あそのふん火ころの恐しさ。動物園で、ゼットコースターにのつたことなど、修学旅行は、たのしく、だれも多きなげがをしないで、島原に帰ってきた。とちゅう先生から、しかられたけど、ぼくが、大きくなれば、それもなつかしい思い出になるだろう。次に、思い出なのは、しかられたことだ。一・二・三年のころは、あまりしかられなかつた。けれど、四年にもなるとしかられるのも、多くなつた。そうじをさぼつたり、学習帳などをしないと、すぐほうきや手で頭をうたれる。すると、たん

こぶができて、それはもういたいもんだつた。でも、授業は、おもしろく、楽しかつた。五年にもなると、ひどくなつた。忘れものが続くと、かおをうたれるようになった。勉強は、あまりわからなくなつた。と言うのも宿題をしていかないからだ。「宿題は、もうすこし、してからしよ」と思つてテレビを見る。するといつの間にか時間がたち、ねむくなり宿題をしない日が多かつた。でも「こんなことが長く続くことは、よくないぞ」と自分にいいかせるようになつてからは、宿題を忘れることも少なくなつたと思ふ。体育は、いつも楽しかつた。体育は得意の方だつた。先生で思い出があるのは、やっぱりしかられた先生だ。しからない先生より、しから先生の方が、とても好きだ。中学、高校、大人になつても、自分が、しかられた先生や、友だちを忘れないで、生活をしていきたい。六年間の、小学校生活は、自分が社会に出たときに、や

# 「がんばん」

## 誕生のころ

山本 悌一郎

有明海から、がんばの魚信が入る季節になると、きまつて、あの頃(昭和四十年)のことを想い出します。

会報名をつけようと、三小の育友会の皆さんにお願いしたら、なんと、二四八通の応募があつて、嬉しい悲鳴をあげたあの夜も、三小授乳室の窓ガラスを、激しい風雨が叩いていました。

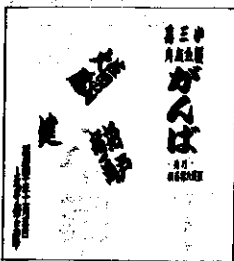
三度、四度にわたつての無記名投票の結果、

「がんばん」 五票 当選

「はまゆう」 四票 次点

「あけぼの」三票 という大接戦の末、「がんばん」が産声をあげたのです。「白山」、「しらぬ火」、「まゆやま」も応募が多く、「汐騒」という名称があつたのも忘れられません。

「がんばん」の名付親は、明



月堂主人の田口勝さんでした。大喜びの田口さんから、会報班のメンバーは、何度もお菓子をせしめたものです。

何となく御愛嬌があつて、三小にピッタリのこの名称を私は、大相撲番付表に見るあの独特な書体で書けないものかと、無理を承知で話し出すと、

「よか、よか。そんなら、おれに、まかせちくれなへ」と、ボンと胸を叩いたのが、小鉢京さんでした。何でも、小鉢さんは、立行司の式守伊三郎氏と親友だと言うのです。驚きました。大喜びしたのは、申すまでも

ありません。数日後 「これが、ほんとの勤亭流という書体たない」といって、小鉢さんは、式守伊三郎書の見事な色紙を持参されました。この書は、早速第三号から、会報

の表紙を飾ることになったのです。

この色紙は、今でも、校長室の壁を飾っていますが、最近の会報表紙では、どうしてこれを生かさないのか、淋しくなります。

アイデアと鋭い直感力の加藤勝彦先生、ナイーブな神経でマンガの似顔絵を描いて下さった佐藤利宗先生、ユニークな随想を寄せて下さった谷口三矢先生、数学専門が信じられなかった名筆家草野洋子先生、いろいろと有難うございました。

- 田中 十郎さん
- 小鉢 京さん
- 田口 勝さん
- 本田 幸男さん
- 坪田 勤次郎さん
- 加藤 一美さん
- 遠武 照子さん
- 緒方 喜十さん

## 記念特集

みんな、すばらしい仲間でした。日本一の会報班だと自負できたほど、明るく楽しく、息がピッタリと一つにとけ合っていました。

私は、これらのすばらしい仲間の皆さん達と共に、「がんばん」を誕生させ、三小育友会、会報史の中で、ささやかな一頁を綴ることが出来たのを、この上なく嬉しく思いました。

## 会報がんばん

### 十年今昔

田口 勝

三小育友会「会報」がんばん発刊十周年を迎えました事を皆様と共に喜び申し上げます。

振り返りますと十年前会報名の募集がありはからずも私の「がんばん」が入選いたし、全く夢のようでした。藤田PTA会長からの懸案でしたが、後に本田会長が引きつがれ、会長からの御祝におくられ、酒を押入、文化部

長の(現会長)山本さん宅に持込み当時の会報班長だった山本悌一郎さんの音頭にて乾杯、大いに氣勢を上げたものでした。

其の当時の会報班員は定かではありませんが、班長に山本悌一郎氏のもとに小鉢さん外五位位いたと思います。

先生方は、加藤先生、草野洋子、谷口みや先生だったようでした。画の上手な佐藤先生はいつも会報に似顔を書いておられたようでした。

いつもの事ですが、会報切りまきわになつてはたばたしたものです。

此のように過去を追想して見ますと十年たつのも早いものだとつくづく考えられます。特に題字がんばんは小鉢さんのお世話にて大相撲福岡場所があつていた時、知人の式守伊之助氏にお願いされて出来上がったものです。

当時皆様の一致した感想は、ユーモラスで中身は味があるとの事で、ブックブックと此の十年間の味のある内容の会報が出来て居る事と思います。今まで育て可愛がつて頂きました会報班の皆様方に心から感謝いたします。

今後より良い充実した内容の会報が出来ます様、お願い致し、皆様方の御健康をお祈り、発刊十年の喜びのことばといたします。

「がんばん」が  
かえる  
艇まで

元編集委員  
山本 篤五郎

今年度は、三小育友会報、「がんばん」が誕生してから、満十年になるので、当時のことを何か書くようにとのことですが、「がんばん」命名の頃のこととは、そのゴッドファーザーである田口さんや、名編集長、山本篤一郎さんの記事がありますので、私は、むしろそれ以前、云わば「がんばんが孵るまで」のことを二、三ご紹介したいと思います。

三小育友会で、会報を作ろう、という意見が具体化したのは、昭和三十七年度のはじめ頃でした。当時、会長はチエリー豆総本店の藤田実さん、校長は青藤恒保先生、そして教頭が現校長の村田正二先生でした。専門部に文化教養部（略称 文化部）というのがあって、そこから会報は生まれたものです。その時の部長

が、その後会長なられた本田善男さんでした。

三十七年六月八日、文化部会が開かれ、その年の事業計画の中で、会報の発行が決定され、おおまかな内容、先進地視察旅行の報告、と編集委員が決められました。

編集委員長が副部長で、坂上の谷洗さん、編集委員に同じく副部長で、湊新地の広瀬ウキ子さん、中組の相川昌子さん、新山の上田富子さん、それに私、学校側から下田文俊先生（現在、西有家町長野小の教頭）が任命されました。

六月二十日に、校長室で第一回の編集会議が開かれ（その時、教頭の村田先生も出席されております。）その後、二・三回集って、七月二十日付で、三小育友会報第一号が発行されました。

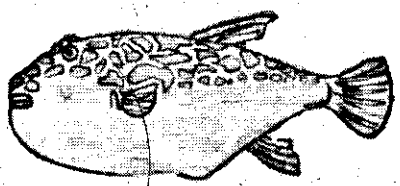
今でも、きつとそうだと思いますが、会報の編集は、なかなか苦勞が多い反面、また楽しいもので、あれこれにぎやかに相談しているうちに、ついおそくなつてしまうこと

がんばん10年

があります。最初の頃は、何ぶんにも勝手がわからず、いつもおそくなるので、男ばかり三人、谷さんのお宅でやっていたうちに、酒を飲み出して、酔っぱらって筆がすべりすぎたりしたこともありました。由来

「がんばん」と「酒」はつき物だとみえます。発行当初から、何かよいベツトネームはないか、と再三募集を行ない、会長さんからは、賞品としてチエリー豆をもらうことになって

いました。が、応募者がなく、その後三年間、第九号まで、名無しの「三小育友会報」として続いて来たわけです。その間、毎年の研修旅行の記事や、校長先生の交替で、松本巖先生になったこと、九十周年記念行事、各専門部の活動報告、会員の声など、連絡やお知らせなどに大きな役割を果たして来ました。



そして、会報第十号になって、ようやく「がんばん」という、りっぱな名前がつけられ、さらに面目も一新してお目見えすることになるわけです。

「がんばん」の成長

広 報 部

私たちの「がんばん」が誕生し、命名されるまでのことについては、三人の先輩によつて、のべていただきましたが、その後「がんばん」がどのように成長したか？ について古いとじ込みからたどってみます。

それによると、私たちの「がんばん」は、会報として生れてから、本号で通算三十七号、命名されてから二十八号となります。人間で言うとお働きざかり、「がんばん」で丁度食べ頃でしょうか？

その間、ここまで育てて来られた歴代の編集長、編集員の方がたのご苦勞は、たいへんだったろうとお察しします。

さて、昭和四十年、「がんばん」命名第一号には、松本校長先生の「タッチ・イクォール・ラブ」の名文章がのつています。今では、あまりにも有名なこの文句が、最初発表されたのはこの記念すべき号であったと聞いております。

軽いユーモアのなかに、人間関係の心理と教育のコツが、分りやすくのべてあります。第二号には、現校長村田先生の「チビッコ大将」という、先生えたてまつったニックネームを巧みに使つて、子どものからだだと教育の問題をのべられた名文章があります。

その他この年には、研修旅行の報告や、学校参観、またこの年にはじまった日曜、父親参観の記事、昨年亡くなった、アメリカの上田金作さんへ宛てた、私たちの思いを込めた公開の手紙などもつています。

四十一年度には、研修旅行の報告と、本校育友会が、優秀PTAとして、県PTA連合会からの表彰を受けた記事さらに、プール建設計画の発足等の記事が見えます。

四十二年度には、この年行なわれた、学校の国語教育研

究発表大会の歴史的な大成功などの紹介があります。

四十三年度には、校長が松本先生から村田先生に代わり、会長も本田氏から山本氏へ代わりました。また、この年出来上ったプール完成の喜びが伝えてあります。

四十四年度には、佐世保市への研修旅行の報告のほか、夏休みや運動会、卒業についての父母や子どもたちの意見など。また、ぼつぼつ激しくなってきた交通戦争のなかで、どのようにして子どもたちを守るか、という交通指導の問題等がとりあげられています。

四十五年度には、長崎市への研修旅行報告があり、体育館敷地確保の陳情のことも出ています。また、この頃からPTAのあり方や、教育予算の問題などが盛んにとりあげられております。

四十六年度には、交通部が島原警察署長さんから表彰を受けたこと、佐藤先生の絵が文部大臣賞を受けたことの報告と、また体育館敷地確保を正式にとりあげています。

さらに学級友会の問題が熱心に論じられました。そして本年四十七年度については皆さん手近かにご承知の通りです。このように私達の「がらんば」の成長をたどってみると、そのままPTAの成長であることを知ります。これからは「がらんば」の編集を通して育友会の発展をはかりたいと思っております。

### 校外指導

#### 子どもの心を知る

「お正月楽しかった？」

「冬休みのくらしはどうだった？」

「三学期始業式の日、二時間目、私の問いかけた子どもたちは、口々に年の暮れの、そして新年のできごとをしゃべり出した。大きな声で身ぶりまで交えて話す男の子、隣りの子と小さい声だが、いかにも楽しそうに話し合っている女の子。話題はさまざま、家族そろって旅行したと、お年玉で前から欲しかったゲームを買ってそれで遊んだこと、いとこたちが来て、大勢で食事したことなど……

こんな明るくはしゃいだ教室の中に友だちのおしゃべりをただ黙って聞いているだけの女の子がいる。私は、妙にその子のことが気になった。

いつも控え目で人のいやがることなど口にもしない。それでいて、仕事や勉強には驚くほど静かなフアイトを燃やすK子、彼女には、ほかの子どもたちのような話題になるものがなかったのだ。

K子の小づか、喉には、母

からのお年玉五〇〇円が「もらったお金」の欄に書いてある。

学級一の人気者M男のそれには数人からのお年玉の金額がずらりと書きこんである。合計二二五〇〇円、対照的なこの二人の子、どちらも、それぞれ親と子の暖かい心の交わりの中で、すばらしい新年を迎えてきたのだ。

ここで、私は、最初子どもたちに問いかける時には考えもしなかった、割り切れぬ、何か心にかかるものを感じた。はしやぎまわる友だちをじっと見ていたK子の心の動きを思えば思うほどに。

指導すること、それは、ひとりひとりの子どもの本当の心を知ることではなからうか。禁止と規制にすりかえられがちな生活指導、しつけという名のもとにおしつけられるおとなのエゴ。

子どもたちの世界に飛び込んで、もう一度考えてみたい。

生活部担当  
木下利之



### 教養部

今年度の教養部の一年間の活動方針を、次の様に決定し活動を行なって参りました。

#### 各部の反省と新年度の課題

- (1) 研修旅行
  - (2) 育友会文庫巡回(年二回)
  - (3) 各種PTA研究会への出席
  - (4) 講演会の開催
- 年度当所研修旅行に、佐世保市大野小学校の見学を実施致しました所、各部の協力も有り、大多数の参加を得、誠に有難うございました。
- しかし、実施時期に付いて問題点多く有りますので、今後の取組に付いて、五月中旬頃までに実施出来る様にしてはいかかでしょう。
- 町内代議員・学級代議員の早期選出が出来れば、五月中旬までには実施出来ると思えます。
- 育友会文庫の実施に付いては、係もありませんが、

文庫の充実を計らなければ成らないと思いました。夏期に巡回された本が、冬期に再び巡って来る様なこともあります。

各種PTAの研究会への出席に付いては、今年度は長崎市公会堂で開催され、本校からも七名が出席しました。議題に付いては、出来れば少しでも審議して行く必要があったのではないだろうか。

出来れば今後、各分散会に出席出来ますように配慮を願います。

講演会の実施に付いては、本年度は、長崎大学教養学部教授川崎宏先生にお願い致しまして、教育講演会を開催致しました。

子どもを育てる事は大変むずかしい事です。

親子の断絶とよく言われますが、親は子どもに対して何をすれば良いのか、とか、子どもの成長に付いていろいろと講演していただきました。

今後とも、講演会の開催を続けていただきたいと思えます。

# 学級部

## 御協力有難う

学級育友会の活動を盛んにするために、学級部が出来て二年目になりますが、どうゆう風に活動を進めたら良いのか皆目わからない状態で部の運営を引き受けましたが、学級部員、学級代議員の方々の熱意と、会員各位の御協力により道が開けて来た様です。

先づ、学級部員が出来れば多く部会を開いて、活動に就いての話し合をしました。毎月一回部員、学級代議員、学級担任の方々が学級育友会の活動状況並びに出席率、司会状況を会員に知って頂くため、学級部便りを発行しました。これは会員特に出席出来ない会員の方々に学級育友会の活動状況を知って頂く上に非常に効果があったと思えます。学級育友会活動も、代議員の努力により回を重ねるごとに、出席率も向上し、会員による司会もどうにか常識と成って来ました。来年度は会員の皆様が更に研修され、質向上を希望するものです。学級育友会の年間行事計画に就いて考えますと、本年は

# 生活部

## 反省の中から

年度当初、豊かな心の子どもを育てるためのお手伝いなら「あれもしよう、これもしよう」と思っていたが、一年の時間が過ぎてふりかえってみると、計画した行事の消化にきゅうきゅうとして終ったような感じである。

具体的問題あげて生活指導のあり方を勉強する目的の生活指導研究会が一回しか開けなかつたし、会員の皆さんの理解と協力を得るための生活部だよりも一回の発行で終った。

子ども達の生活状況、生活部の対策など、情報提供、問題提起の意味からもその都度出来るだけこまめに発行し、会員のみなさんに呼びかけ、充分知ってもらうことは大切なことではないだろうか。生活部は、子ども達の生活と直結しているので日常活動が要求され部員のみならずにも常時自主的な補導、少年団指導等実施していただいた。本當にご苦労さまでした。だが、いろいろと問題は絶えずこれ

# 環境部

## 一年をかえりみて

「教育は環境に左右される」と昔からいわれます。私たち、環境部は、子どもたちの学校における、主として物的環境の整備充実と、校外生活環境の危険ヶ所等の点検等を主眼に努力してまいりましたが、十分な活動ができなかつたことを、会員のみなさんに申しわけなく思っているところでありませう。

環境部の、ことしの具体目標として、①明るくて健全で安全な校外生活の環境づくりにつとめる。②校内における学習・生活環境の保全と改善につとめる。この二つを努力してまいりました。

校内における学習、生活環境の保全と改善につとめる。市の子算の範囲内で重点的に改善してもらうことを、

# 環境部

## 一年をかえりみて

三小育友会生活部が原動力となって「豊かな心の社会をつくる運動」を推進してはどうだろうかなどと本気で考えている。

団体の活動はえてして一つの型にはまりがちであるが生活部も同様その枠から脱却出来なかつたようである。

私達は話し合いをするにしても、行動をおこすにしても当らずさわらずのものを言ったりしたりする。だから一般的な結論となり、行動も消極的で型にはまったものになりがちである。部会でもそうである、生々しい事例を出し合い指導援助の立場から私達はどうすればよいか真剣に討議しどんな小さなことでも具体的な計画を作り、みなさんの理解と協力を得て地域ぐるみの態勢をととのえる必要がある。「物」の豊富な今日、子ども達だけでなく私達おとなでさえも色々な誘惑にまどわされやすい、ともすれば横道にそれそうな子ども達をみんなの力を出し合って明るく健全に育て豊かな心の満ちた社

会にしたいものである。話が大きくなるようだが、三小育友会生活部が原動力となって「豊かな心の社会をつくる運動」を推進してはどうだろうかなどと本気で考えている。

一年をかえりみて  
「教育は環境に左右される」と昔からいわれます。私たち、環境部は、子どもたちの学校における、主として物的環境の整備充実と、校外生活環境の危険ヶ所等の点検等を主眼に努力してまいりましたが、十分な活動ができなかつたことを、会員のみなさんに申しわけなく思っているところでありませう。

学校にもお願いいたし、校舎の部分的修理や、給食場の修理、雨漏り修理、壁修理、体育倉庫の修理、掃除用具箱の補充、カーテンの取付（鉄筋東側冬教室）など、実施してもらいました。

また昨年七月には、会員奉仕によりまして、プール南側の整地作業、鉄筋校舎と運動場への入口の、コンクリート舗装、ベルマークの整理をしていただきました。

本校の育友会活動、とりわけこれからの環境部が、しっかり取り組まねばならないことは、体育館建設の大事業であります。このことにつきまして、過去何回も、機会あるごとに、市のほうにもお願いしているところでありまして、本年度になりましてからも、市教育委員会、市理事者に、できるだけ早期建設を極力お願い申しあげておるところであります。地元側といたしまして、みなさんのご意見を、十分お聞きし、建設のための態勢作りを早急にし、その実現に努力をはからねばならないところであります。なお、けん案事項の、鉄筋校舎南側の窓枠修理につきま

しては、先般（昨年）市に陳情をし、改修を強くお願いしているところでありましたが、新年度（四十八年度）は、実現出来るのではないかと、期待しているところであります。校外における生活環境につきましては、交通部とも連携をとり、危険ヶ所の信号機の設置や、その他各町内育友会の活動として、個々に取り組みをしていただき、子どもたちの生活のなかで、この一年重大な事故も発生することなく、有難うございました。どうか今後とも、子どもたちの安全な生活を確保するため、会員みなさんの格段のご協力をお願いしてやみません。

### 交通部

#### もう少しだけ頑張ろう

三学期もやがて終りとしていきます。今まで無事故で過した全学期の総ざらえです。育友会の皆様を始め、諸先生方は、子ども達の通学に色々といき苦勞や心配があつた事と思

います。何もわからなかつた一年生がやつと交通道徳がわかりかけた時です。今、経験を生

かしてもう一度、新たな気持ちで反省をしながら、子どもを交通事故から守る事を考えて見ようではありませんか。目の届かぬ所ではどの様な遊びをしているのでしょうか。道路とか危険な場所では遊んでいないか。自転車の二人乗りはしていないか、と、気が気ではありません。一家団樂の話し合いの場を作って子ども

の行動を知る事も交通安全へつながる道と思ひます。育友会の皆様方一人一人が気づけて危険な遊びを見られたら正しく御指導下さいまして事故のない毎日が過せませう様に、又子供達を安心して遊びに出せる様にしまししょう。

栄町の交差点に信号機がたちました当時は、青に変わるのを待たず、よく赤の時に通る子供を見てキモをひやして注意した事も有りました。近頃はそんな事もなく安心していきます。何事も初めと終りが大切です。

三学期も後少しです。初春とは言え寒さはきびしく、雨が降れば子供は後先見ずかけ出します。最後の日々を子供達が事故に、あわない様に育友会の皆様にも、もう一頑張

りお願いします。「とび出すな 車は急に止れない」。「止めよう自転車（二人乗）」。「安心と思う前に見る左右」。交通部長として弱力ながらもここまでやってこれましたのは、部員の皆様始め、各育友会の方々の暖かい護身力の玉ものと、深く感謝しております。仕事が忙しく何んのお役にもたてなかつた事を心よりお詫び致します。

### 広報部

#### 今年度の編集を終つて

ネズミの年からウシ年へ移り、新緑の息吹きを感じられる季節を迎えました。四十七年度の会報も、この号で予定の発行を終り、新しい役員へクバトンタッチするわけです。

今年度は、夏休みの特集号を含めて四回目ですが、前三回は、みなさんから、ご意見、詩、俳句など、沢山の原稿をいただき紙面をうめつくすことができました。

編集面では、一部ご批判も受け、広報紙の役割を十分果たしたと思ひませんが、心のあふれあい、親しみのあ

る、楽しい会報ができたと言んでいます。今年には会報ががらば々と名付けられて継承十年に当る記念すべき年です。この最終号は、当時の方々のお力添えを得て、このがらば誕生を特集し、更に今年度を締めくくる意味で、各部の反省、学校、育友会を去る人達の回想などでまとめてみました。現在の内容が、初心を忘れず、現在を踏襲し、更に新しい課題に対応する、素晴らしい育友会活動の展開に寄与できるなら幸いと考えています。

未熟さを熱心さでおぎない知識の不足と筆不精を、みなさん方の協力で支えられた一年でしたが、今日を迎えて安緒の胸をなでおろしています。みなさん、本当にお世話になりました。

ご協力下さった多数の人達に、ご指導下さった先生、先輩諸兄に、心から厚くお礼申し上げます。最後に、みなさんのご健康と、親愛される育友会への発展を祈念しつとお別れいたします。

さようなら！  
四十七年度 島三小 育友会

育友会